

企業経営に資する知的財産契約

企業経営に資する「知的財産契約戦略」

—企業経営においては知的財産契約戦略が重要であることを考慮して—



青山学院大学法学部特別招聘教授
石田 正泰

目次

はじめに

I 企業経営に資する知的財産

1. 企業経営に資する知的財産の要素
2. 企業経営に資する知的財産化のあり方

II 契約の締結自体による企業経営に資する化

1. 企業経営における知的財産契約
2. 知的財産契約の契機、目的、効果
3. ライセンス契約の種類
4. 企業経営における知的財産契約の位置づけ
5. 企業経営に資する知的財産契約

III 契約内容の戦略の創り込み、表現、評価

1. 知的財産契約の戦略の考え方
2. 知的財産契約活性化論
3. 特許ライセンス契約の多様な展開
4. ライセンス契約の成功要因、留意点

IV ケーススタディー

1. ライセンス契約におけるライセンサーの利益戦略
2. 知的財産契約による企業経営に資する化
3. 企業経営に資する知的財産契約
4. 知的財産経営戦略論

まとめ

はじめに

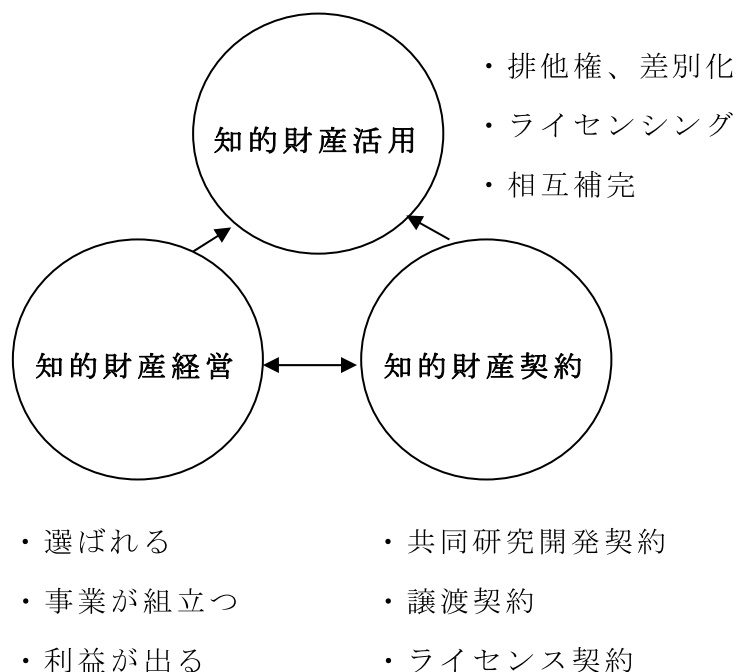
昨今の企業経営においては、知的財産を自社の重要な経営資源・競争軸と位置づけて対応していくことが不可欠である。そして、知的財産を最大限に活用して企業経営に役立てるためには、ライセンス契約等を通じて意識的に「企業経営に資する知的財産化」を図ることが必要である。特に、オープンイノベーション対応においては、知的財産ライセンス契約が必要不可欠である。

企業経営に資する知的財産は、具体的な戦略とそれを実現できる人材の存在によって実効性が確認される。契約書に関わるテクニカルな専門知識を習得することも必要であり、より重要なのは企業としての本質的な契約実務力（対応力、応用力）を高めていくことである。膨大な費用をかけて取得した貴重な知的財産も、契約戦略を誤れば全てが台無しとなる。知的財産業務の真髄は、知的財産契約業務である。

知的財産を経営資源・競争軸と位置づけて対応する企業経営が知的財産経営である。即ち、知的財産経営とは、知的財産を戦略的に活用して経営課題（利益を出して持続的に発展すること）を解決することである。

企業経営における知的財産戦略は、突き詰めれば、「知的財産」を最大限、

いかに効果的に活用できるかを追求する経営戦略であるといえる。その観点からは、その基本的要素、課題は契約による企業経営に資する知的財産化である。



I 企業経営に資する知的財産

企業経営に資する知的財産とは、特定の知的財産自体ではなく、企業が保有する知的財産の機能を十分に発揮させる戦略及びそれを実行する人材・組織により経営戦略に練り込まれた位置付けにおける知的財産、すなわち、「企業経営に資する知的財産化された知的財産」と解すべきである。各企業は、保有する知的財産のリストを管理するのではなく、企業経営に資する知的財産